

授業じゃできないジャンボ工作

名大生と児童 学びあう造形

いなべ市大安町石榑南の石榑小学校で、名古屋大学で建築を学ぶ学生らによる「ワークショップ」が子どもたちに人気だ。造形の面白さを知ってもらおうと年に4、5回企画。子どもたちは、授業では体験できない工作も遊びを心待ちにしている。「子どもの豊かな発想が研究への刺激にもなる」と、学生たちも満足そうだ。

いなべの小学校で「講座」

図工室に1、6年生30人が集合した。全校児童292人のうち約100人の応募の中から、抽選に当たった幸運な子どもたちだ。テーマは「エアドーム」づくり。新聞を5層四方にしてつなぎ合わせ、空気が膨らませてドームを作った中で遊ぶという企画だ。

まず、学生9人に教わりながら「明かり窓」作りから。水色やピンクの淡い色がついたトレーシングペーパーを、

はさみで星や三日月の形に切り、学生が同じ形に切り抜いた新聞に張ると、薄明かりの

漏れる窓ができた。

体育館に移動し、作業は大詰め。200枚もの新聞を張り合わせ、最後に大きくなった2枚を重ねて脇を閉じると、5層四方の巨大な袋が出来上がった。

「10、9、8、7、6……」全員のカウントダウンが体育館に響き渡る。扇風機のスィッチを入れて勢いよく風を送り込むと巨大な袋は風船のように膨らんだ。

「やった」「できた」子どもたちは、歓声を上げ

て中で走り回った。

ワークショップを企画するのは、名古屋大学院環境学研究所で都市環境学を教える准教授・小松尚さん(41)のもとで学ぶ学生だ。小松さんは02年から石榑小の改築計画に携わり、05年に新校舎ができて以来、学生と一緒に創作の面白さを子どもたちに伝える活動を続けてきた。

小松さんにとって、忘れられない経験は、7年前に名古屋市の商店街の祭りで、小学生と店の看板づくりに取り組んだ時のことだ。

ある店主が、祭りが終わった後も子どもたちの作った看板をしばらく大切に掲げてく

新聞紙で作ったドームの中で遊ぶ児童 いなべ市大安町石榑南の石榑小学校

れていた。それが話題になり、「子どもを通じて街づくりがよりよくなる。子どもと活動することで、学生も意義深い研究につながる」と、考えるようになった。

ドーム内で電球がともされ、薄暗い体育館にやわらかい光が広がった。修土課程1年の神谷友子さん(22)は「建築という分野に楽しく親しんでもらういい機会。将来は子どもの目線を取り入れた都市計画に携わってみたい」と話した。

